

私たちは、命のつながりに思いを馳せる暮らしを提案し、心豊かな生き方のお手伝いをします。

創業 明治 44 年

命のつながりを想う



長門屋

お城の店が目印です。

発行 有限会社 長門屋
編集：未来の種まき委員会
〒990-0042
山形市七日町 1-4-12
TEL 023-622-2204
FAX 023-622-2203
http://oshironomise.com
2019 年秋 第 30 号

あどつあま

“あどつあま”とは…

仏様をす方言。米沢の方では住職様、僧侶をす方言です。
宗教の知識を通してお役にたてれば嬉しいです。



にこやかに取材に応じてくださった岩井様ご夫妻（右）
と少し緊張気味のインターンシップ研修生（左）

岩井様ご夫妻に、完成したお墓についてお話を伺いました。インターンシップ研修中の学生さんを伴ってのインタビューでした。学生さんにとっても貴重な機会になったことと思います。

農業から地域の仕事までこなす、元気いっぱいな岩井様ご夫妻。昨年のお仏壇の納品に続き、この度はご用命いただいていましたお墓が完成いたしました。

祈りのある暮らし お墓ものがたり

山形市 岩井様の巻



お父様が蔵王の畑を開墾した際に出てきた「蔵王石」を運び出し、石塔に使用しました。自然石の風合いに力強く岩井家の文字が刻まれています。唯一無二のお墓づくりができました。

Q お墓を建てることになったきっかけを教えてください。

（岩井様）父親の不幸がきっかけでした。

Q お仏壇を購入されて、またお墓が完成してから気持ちや暮らしの変化はありましたか。

（岩井様）お墓には毎日行かれませんが、家のお仏壇にお参りすることが多くなりました。特に母親は、毎日のようにお参りして、時にはお仏壇に話しかけたりしているようです。

Q お墓づくりでこだわったところはどこですか。

（岩井様）父親が蔵王の畑を開墾した際、出てきた蔵王石を石塔に使用しました。兄弟とも相談し、これと決めていました。

Q お墓を建てるにあたり基準としたことはありますか。

（岩井様）実は、いろいろなチラシを見たり、お墓を見て回りました。その中で自分が建てたいイメージをつくっていききました。

Q これからお墓づくりを考えている方にアドバイスをください。

（岩井様）これからの時代、お墓の形も個性的になり、多様化していると思います。いいお店と思えるところに出会えることが大事だと思います。長門屋さんは老舗ですし、安心感がありました。

ありがとうございました。
これからもご愛顧くださいますよう、よろしくお願いたします。
（後藤久嗣）

テーマは「山形で働く魅力を知る」

山大生がインターンシップで職業体験

山形大学では、学生の低学年からのキャリア教育、山形の中小企業の魅力を知る、などの観点から一年生を対象とした短期インターンシップのプログラムがあります。長門屋は、毎年九月に三日間の受け入れを行い、今年で五年目。今回のインターンシップ研修生は、工学部一年生の大都友未奈さん（おおぶゆみな）さんです。左記の通り、大きく三つのことを体験していただきました。

1日目 … 金箔職人の西山氏の工房見学と体験

→ 金箔の価格や、金箔を押した仕上り具合に驚きと感動がありました！

2日目 … お墓の彫刻のお客様のお宅へ同行

→ 店舗以外のお客様とのつながりを知ってもらいました。

3日目 … かわら版の取材に同行

→ お客様のお墓建立への気持ちや、「祈りのある暮らし」のお手伝いを、する弊店の取り組みを肌で感じてもらいました。（オモテ面に掲載）

日本の多くの企業は、中小零細企業だといわれています。大都さんには、会社の規模や目に見える部分に左右されるのではなく、働く中で自分なりの幸せや喜びをみつけ、未来をつくってほしいと思います。また来年も学生さんが来られるのが楽しみです。

（国島潤一）



真剣に、金箔押しの体験中。

大都さんの感想

「仏壇屋さん」のイメージは、自分が思っていたのと違いました。三日間で経験したこと全てが新鮮で、何より楽しかったです。実際に働いてみてわかる仕事の難しさもありました。

長門屋の見た目は普通の仏壇屋さん。でも本当はそれだけじゃなく、



最終日の発表の時間。

一般的な仏壇屋さんが出来ないことが出来る場所で、日本の古き良き文化や伝統を受け継ぎ、守っていきこうとする姿も垣間見ることが出来ました。今回インターンシップが出来たことで、知らない世界について知ることが出来、授業での個人目標である「広い視野を持って行動すること」が達成できたのではないかと思います。

（大都友未奈さん）

私たち長門屋にも、沢山の気づきがありました。ありがとうございました。

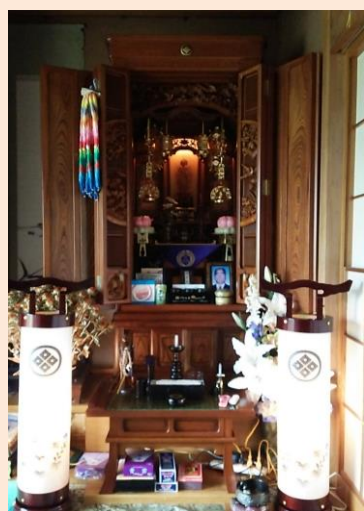
お掃除の お約束

毎年お盆が近づくと、お客様から「お仏壇のお掃除と提灯の組立」のご依頼をいただきます。毎年のお客様には、花笠まつりが近づいてくると、「そろそろ長門屋から、お仏壇のお掃除と提灯の組立の連絡が来る頃」と思っていただけにいるようです。

お仏壇のお掃除に取り掛かる前後に必ずするのが、お仏壇に掌を合わせて「今年もお掃除にきました。」「終わりました。また来年きます。」とお仏壇に掌を合わせることです。

ご先祖様も「今年も来てくれて、綺麗にしてくれた。」と思っているのかもしれない。綺麗になって良かった。」と言ってもらえるのが励みになります。掃除の後、提灯をお仏壇の前に飾ると一気にお盆が来たことを感じます。中でもS様は、帰る時にはいつも「また来年よろしくね。元気で会いましょう。」とおっしゃってくださいるので、「はい。来年も元気で会いましょう。」と約束をしています。約束違反にならないように、健康管理に気を付けます。

（小瀧美樹）



お盆に、ご先祖様が帰ってくるのを待つばかりになったお仏壇